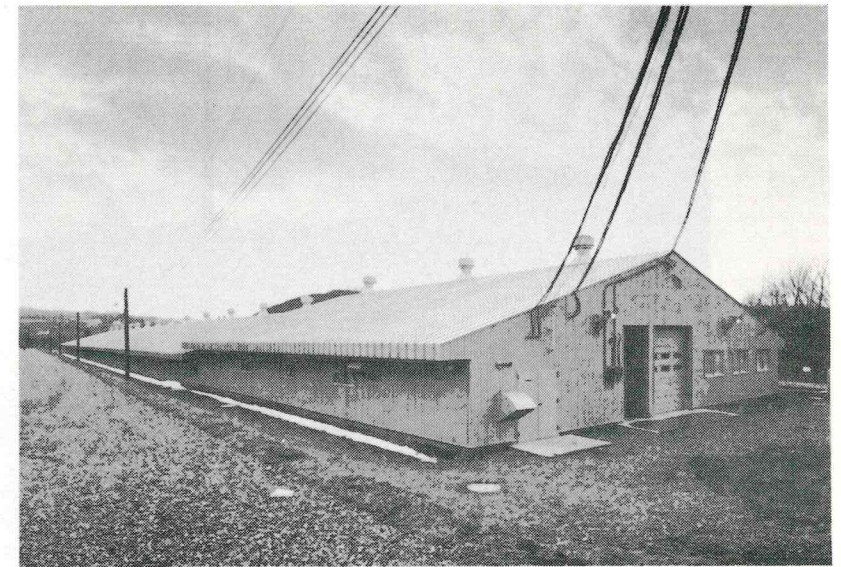


幕 別 事 業 場

竣 工 昭和56年11月

総工事費 290,280(55年度273,500)千円



ふ化室全景

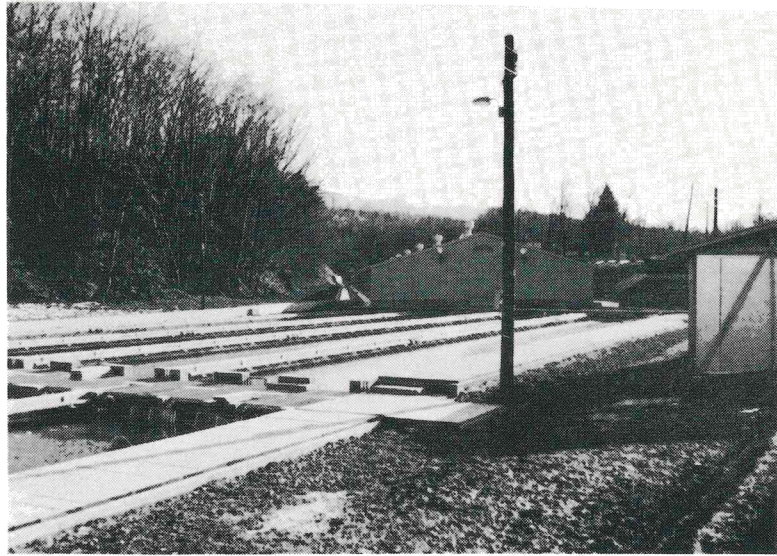


飼育池

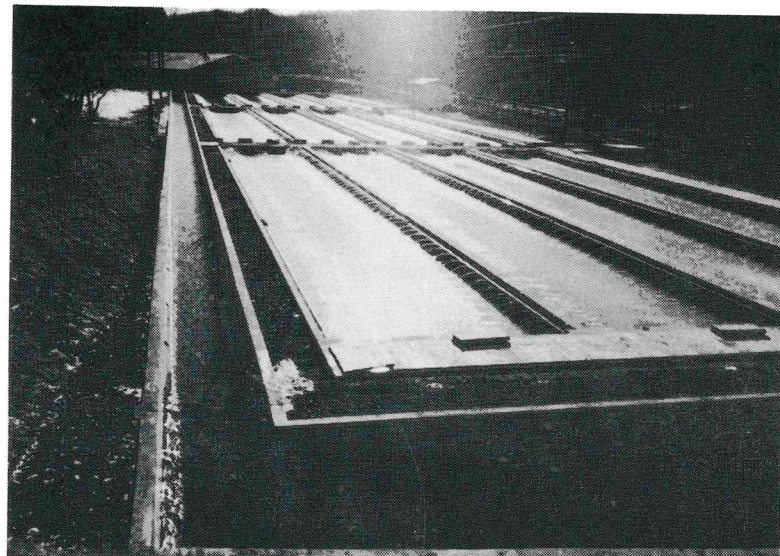
斜 里 事 業 場

竣 工 昭和56年11月

総工事費 244,355(55年度72,290)千円



飼 育 池



飼 育 池

刊 行 の こ と ば

本年、北海道におけるさけの来遊量は2,193万尾と、初めて2,000万尾台となり史上最高を記録した。

漁期の延長は、必要親魚の確保の見通しが得られたことから全道各地で実施された。河川捕獲数151万尾のうち、早期群が112.4万尾と74%を占め、採卵数も約14億粒のうち約11億粒が早期卵で確保された。これら早期卵のうち、約3億粒が早期群の少ない全道各地に移殖された。

稚魚放流数10.8億尾のうち約8.8億尾が早期群であるので、3～4年後には全道各地に早期群の回帰が期待される。

しかし、このことは早急に蓄養施設の整備が必要とされるので、いわゆる正規分布型の資源の造成という観点とも併せて、関係漁業者の努力、協力を得たいと考えている。

ます類では、さくらますは全道的な捕獲数の減少に加えて、台風による蓄養親魚の逃逸などが重なり、極めて低調な成績で事業を終了した。

からふとますは、豊漁年と併せて漁業者が10日間の自主規制を実施したことにより、約1億尾の稚魚を放流することが出来、ほぼ計画通りの成績となった。

関係施設については、継続していた斜里、渚滑、幕別各事業場の増設工事が完成し、中標津、歌登、敷生各事業場においては、飼育施設等の増設を行なった。また、千歳事業場は2年計画での増設工事に着手した。他方、民間施設については国費補助により、北海道の補助も入れて尾白内ほか6ヶ所に施設が建設された。

昭和58年3月

北海道さけ・ますふ化場長